

地域（学区単位）に根ざした環境創造学習と 地域連携

しずおか環境教育研究会 村上 敏

1. 会の設立経緯と概要

本会は、10年程前から静岡市北西部の中山間地、奥蘆科川地域におけるエコミュージアムづくりや自然体験教室を行っていた市民グループ「ずしゃ立」（名称はフィールドの字名に由来）をはじめとする、いくつかの小グループ及び個人が「環境教育」をテーマに結集したものである。ゴミ問題、幼児教育、自然観察など、メンバーがこれまで取り組んできた活動をベースに、新教育課程の施行に合わせた学校教育と環境NGO等の連携のあり方を考え、実践する組織である。また、各種団体と学校教育をつなぐコーディネート組織を目指しており、本年5月には特定非営利活動（NPO）法人として正式な認証を受けた。

2. 本年度の取り組み

もともと本会メンバーの活動は土日・夏休みなどに実施する遠足型プログラムが主流で、子供にとってはやや非日常的なフィールドにおける単発的な自然観察などの企画が多かった。しかし近年は、幼児・児童にとって不可欠な自然体験は身近な場所にある。“ありふれた自然”の中でこそ育まれると考え、子供の日常生活圏即ち学区の中での自然体験をいかに豊かにすることができるかを考えている。また、傍観者の立場で自然界を“ガラス越しに覗く”ような自然観察ではなく、環境と一体になって生き物たちと一緒に環境創造活動を行うという、主体的・創造的な学習のあり方を追求している。さらには、各学区の環境特性を河川流域における位置関係と関連させて考える視点は本会の活動の特色と言えるかもしれない。

活動の柱の一つとして、校庭・通学路をフィールドとした出前教室がある。希望する学校（クラス、学年単位、あるいはこどもエコクラブ）に赴き、自然観察や遊びのプログラムを実施している。

より、アクティブなプログラムとして、メダカ池づくりなどの校庭改善や、学校に隣接する雑木

林の育成管理を子供、地域住民とともに実施した。

また、身近な農環境の代表である田んぼをフィールドにした「田んぼの学校」もようやく開校に漕ぎ着くことができた。麻機小学校において昨年3月にこうした企画を学校側に提案し、7月に職員全体研修会のテーマとなり、秋からは定期的な研修を繰り返している。研修会は「ふるさと総合学習」と称せられ、現在は主として麻機遊水池の自然をテーマにした教材研究を行っている。

このような学校職員と本会の共同研究をもとにこの5月から同校区内にて、環境学習のフィールドとしての田んぼを借用することができた。地主さんは農業技術の面でサポートしてくださり、本会メンバーが田んぼの生き物観察会などを担当することになる。

3. 成果

活動は遅々としたもので、決して満足の行く成果を挙げきってはいない。それでも、本会の活動がようやく認知されてきたため、本年度から静岡県環境部が主催する環境学習リーダー養成講座「環境道場」の企画・運営を全面的に担うことになった。この事業は本年7月から継続的に行われるもので、講座内容や実習フィールドの選定なども含めて運営のほとんどを本会が担当する。

また、各学校との連携も徐々に強まり、南蘆科小学校、西豊田小学校では環境学習の発表会を開催した。そして、長田南小学校や大河内中学校においては、ビオトープ園づくりに参画中である。

4. 課題など

会員に学校教員も数名参画しているが、正規の学校教育カリキュラムの中に本会の活動プログラムを編入するまでには至っていない。

しかし今後、総合的な学習の時間をどう組み立てようかと考える学校に対して、本会がなし得る仕事は多々あるものと考えている。学校、教育委員会との連携を一層強め、教育NPOとしての可能性を追求していきたい。

末尾ながら、本会の拙い活動に対して奨励金をいただきましたことを深く感謝申し上げます。